

お客様各位

カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日
ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

R32C/100 シリーズ

シリアルインタフェース動作(クロック同期型シリアルインタフェースモードの受信)

1. 要約

この資料では、クロック同期型シリアルインタフェースモードにより送受信クロックに同期して外部デバイスからデータの受信を行うための設定手順を説明し、使用例を掲載しています。

2. はじめに

この資料で説明する応用例は、次のマイコン、条件での利用に適用されます。

- ・マイコン : R32C/111 グループ

R32C/111 グループと同様の SFR(周辺機能制御レジスタ)を持つ他の R32C/100 シリーズでも本プログラムを使用することができます。ただし、一部の機能を追加等で変更している場合がありますのでハードウェアマニュアルで確認してください。このアプリケーションノートのご使用に際しては十分な評価を行ってください。

3. 概要

クロック同期型シリアルインタフェースモードを使用して、外部から供給される送受信クロックに同期して、データを受信する設定手順を示します。

この資料で説明する、クロック同期型シリアルインタフェースモードによるデータ受信の設定条件を表 1 に示します。

表 1. クロック同期型シリアルインタフェースモードによるデータ受信の設定条件

項目	設定条件
キャラクタ長	8 ビット
送受信クロック	外部クロック
受信制御	RTS 機能
ビットオーダ	LSB ファースト
連続受信モード	使用しない
CLK 極性	送受信クロックの立ち下がりに同期して送信データを出力、立ち上がりに同期して受信データを入力
TXD、RXD 入出力極性切り替え	反転なし

ここで、受信制御のため RTS 出力を使用します。R32C/111 では、RTS 出力を行うためには $\overline{\text{RTS}}$ 端子に対応するポートについて、方向ビットと機能選択レジスタを設定する必要があります。

表 2 に $\overline{\text{RTS}}$ 端子とポート方向ビット、機能選択レジスタの対応を示します。

表 2. $\overline{\text{RTS}}$ 端子とポート方向ビット、機能選択レジスタの対応

RTS端子	ポート	ポート方向ビット	設定値	機能選択レジスタ	設定値
$\overline{\text{RTS}}_0$	P6_0	PD6_0	1	P6_0S	03h
$\overline{\text{RTS}}_1$	P6_4	PD6_4	1	P6_4S	03h
$\overline{\text{RTS}}_2$	P7_3	PD7_3	1	P7_3S	03h
$\overline{\text{RTS}}_3$	P4_0	PD4_0	1	P4_0S	03h
$\overline{\text{RTS}}_4$	P9_4	PD9_4(注 1)	1	P9_4S(注 1)	03h
$\overline{\text{RTS}}_5$	P8_1	PD8_1	1	P8_1S	03h
$\overline{\text{RTS}}_6$	P4_4	PD4_4	1	P4_4S	03h

注 1. これらのレジスタは PRC2 ビットを “1” (書き込み許可)にした次の命令で書き換えてください。
また、PRC2 ビットを “1” する命令とレジスタを書き換える命令の間に割り込みや DMA 転送が入らないようにしてください。

3.1 クロック同期型シリアルインタフェースモードによるデータ受信の説明

- (1) UiC1 レジスタ($i=0\sim 6$)の TE ビットを “1” (送信許可)、RE ビットを “1” (受信許可) にして、 UiTB レジスタにダミーデータを書き込むと受信待ちになります。同時に、 $\overline{\text{RTS}}_i$ 端子の出力レベルが “L” レベルになり、受信可能になったことを送信側に知らせます(送信側デバイスでは、 $\overline{\text{RTS}}$ 出力が “L” になったことを確認してから送受信クロックを出力してください)。
- (2) 最初の送受信クロックの立ち下がりエッジに同期して、 $\overline{\text{RTS}}_i$ 端子の出力レベルが “H” になります。最初の送受信クロックの立ち上がりエッジに同期して、 RXD_i 端子の 1 ビット目を受信します。その後、2 ビット目以降は送受信クロックの立ち上がりに同期して受信されます。
- (3) UART_i 受信レジスタに 1 バイトのデータが揃うと、 UART_i 受信レジスタの内容は UiRB レジスタに転送されます。同時に UiC1 レジスタの RI ビットが “1” (UiRB レジスタにデータあり)になり、受信が完了したことを示します。また、 SiRIC レジスタの IR ビットが “1” (割り込み要求あり) になります。
- (4) RI ビットは、 UiRB レジスタの下位バイトを読み出すと “0” (UiRB レジスタにデータなし)になります。再度 UiTB レジスタにダミーデータを書き込むと受信可能になり、 $\overline{\text{RTS}}_i$ 端子の出力レベルが “L” になります。

図 1 に結線例、図 2 に動作タイミングを示します。

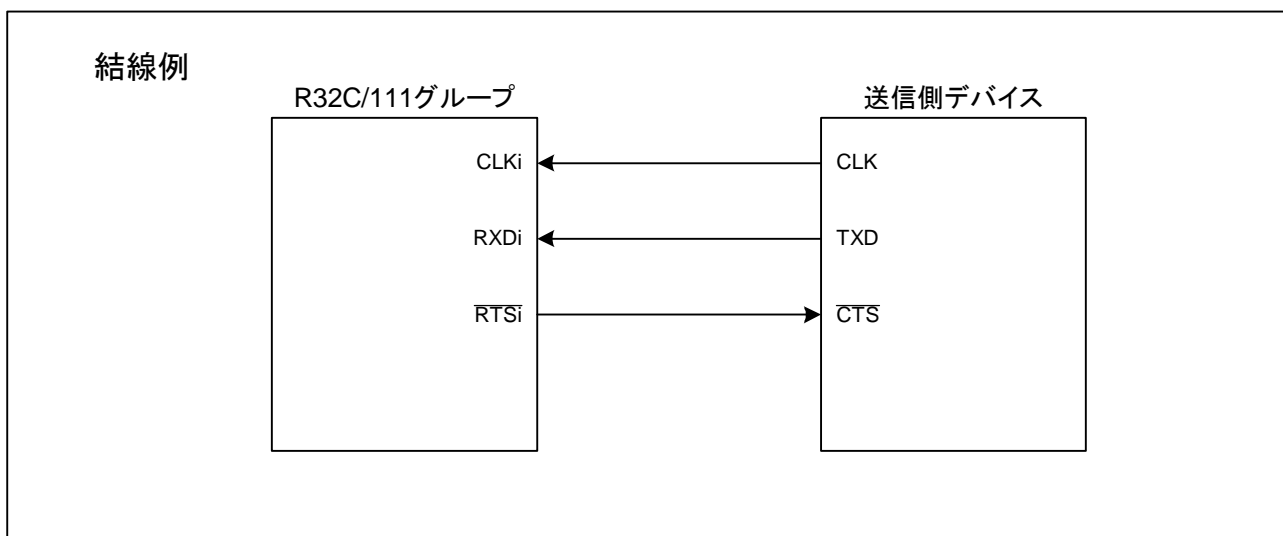


図 1. 受信の結線例

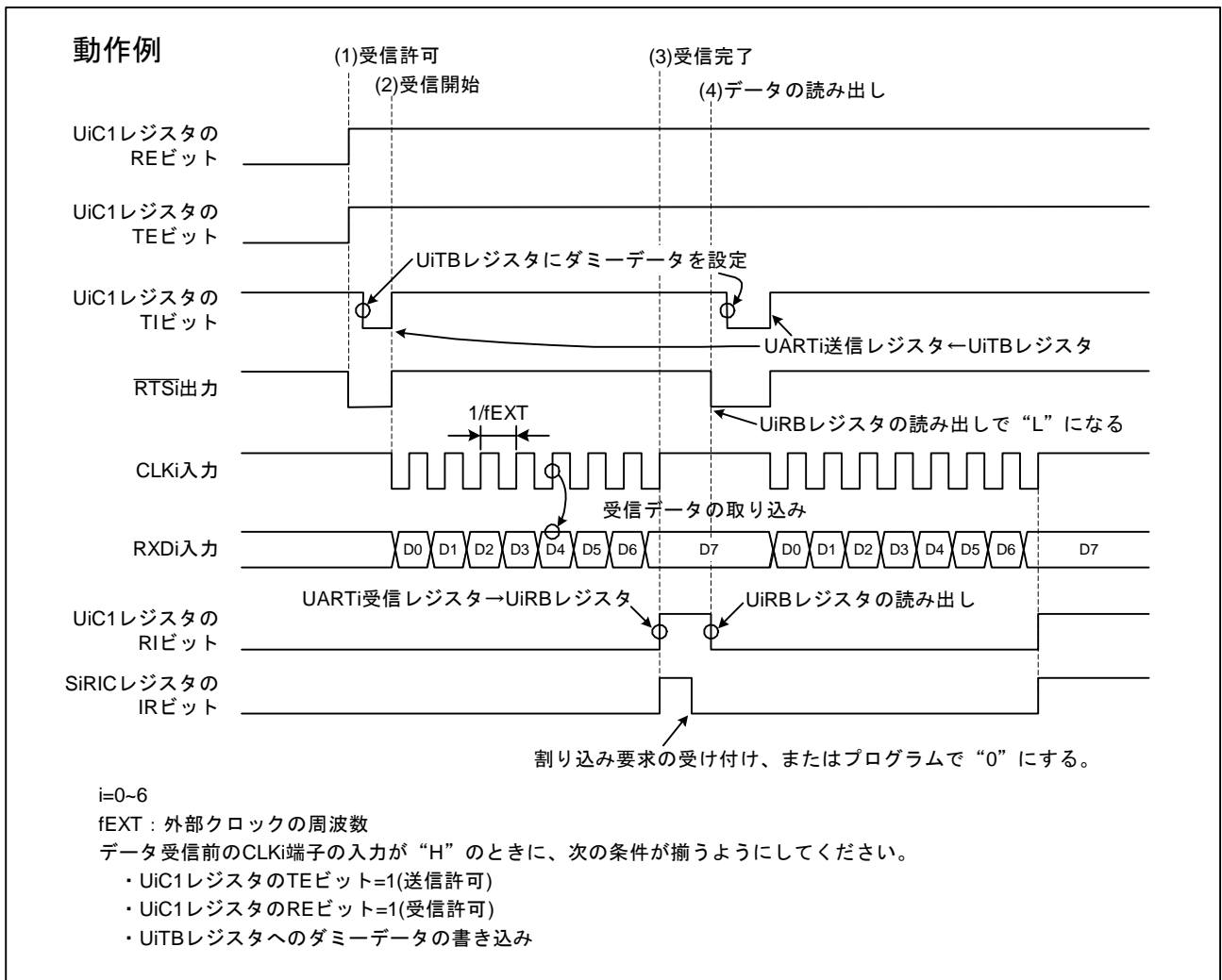


図 2. 受信動作タイミング

3.2 設定方法

「3.1 クロック同期型シリアルインタフェースモードによるデータ受信の説明」の設定手順と設定値を示します。各レジスタの詳細はハードウェアマニュアルを参照してください。

ここで、UARTi(i=0~6)の初期設定の後、UARTi 送信バッファレジスタへのダミーライトを行うことで、受信待ち状態となります。参考プログラムでは、UARTi 受信割り込みの割り込み要求ビットが“1” (割り込み要求あり)になることをプログラムで検出し、受信データの格納を行っています。

図 3 に main 処理のフローチャートを、図 4 に UARTi 初期設定処理のフローチャートとレジスタの設定値を示します

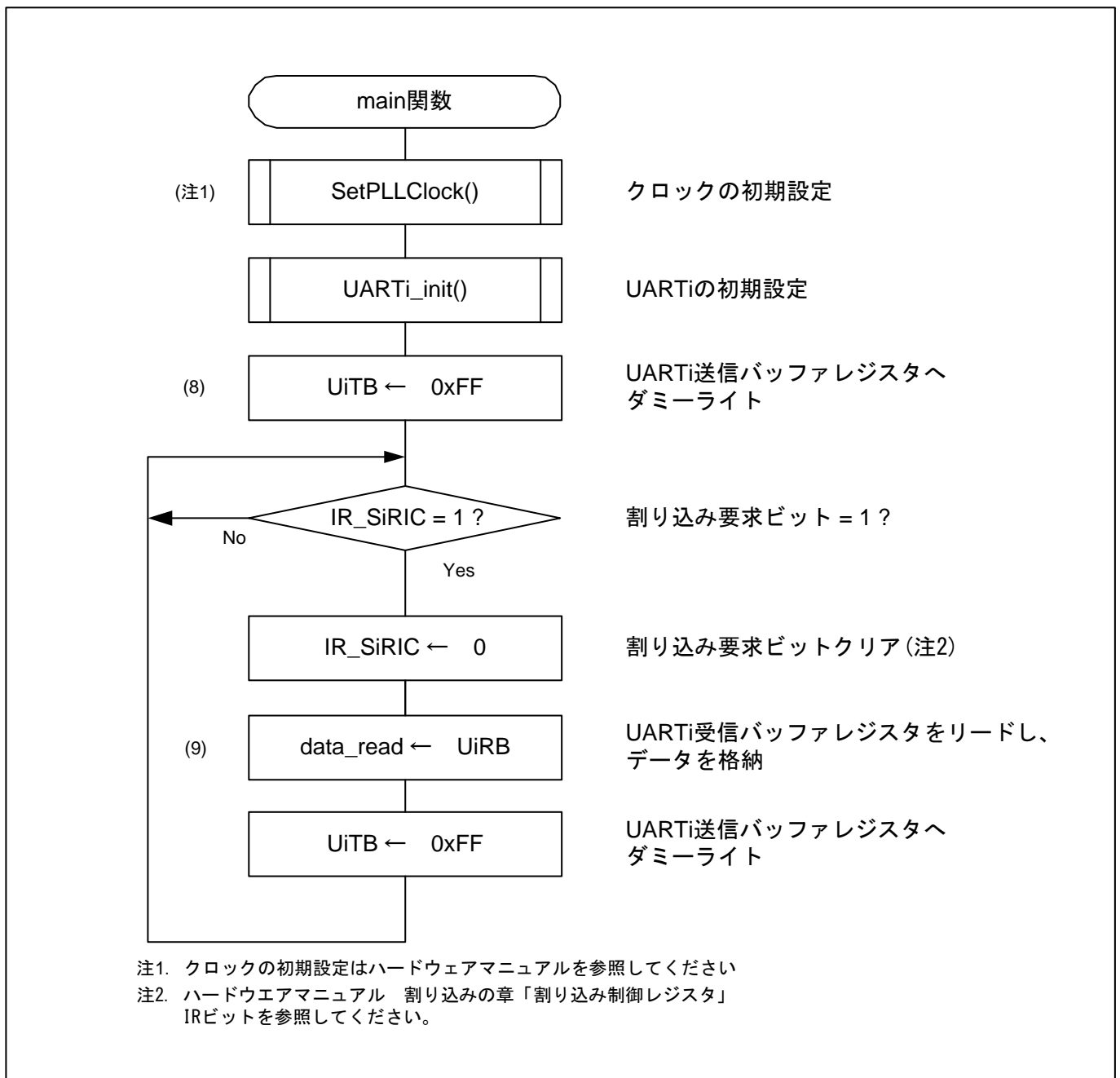


図 1 main 処理のフローチャート (i=0~6)

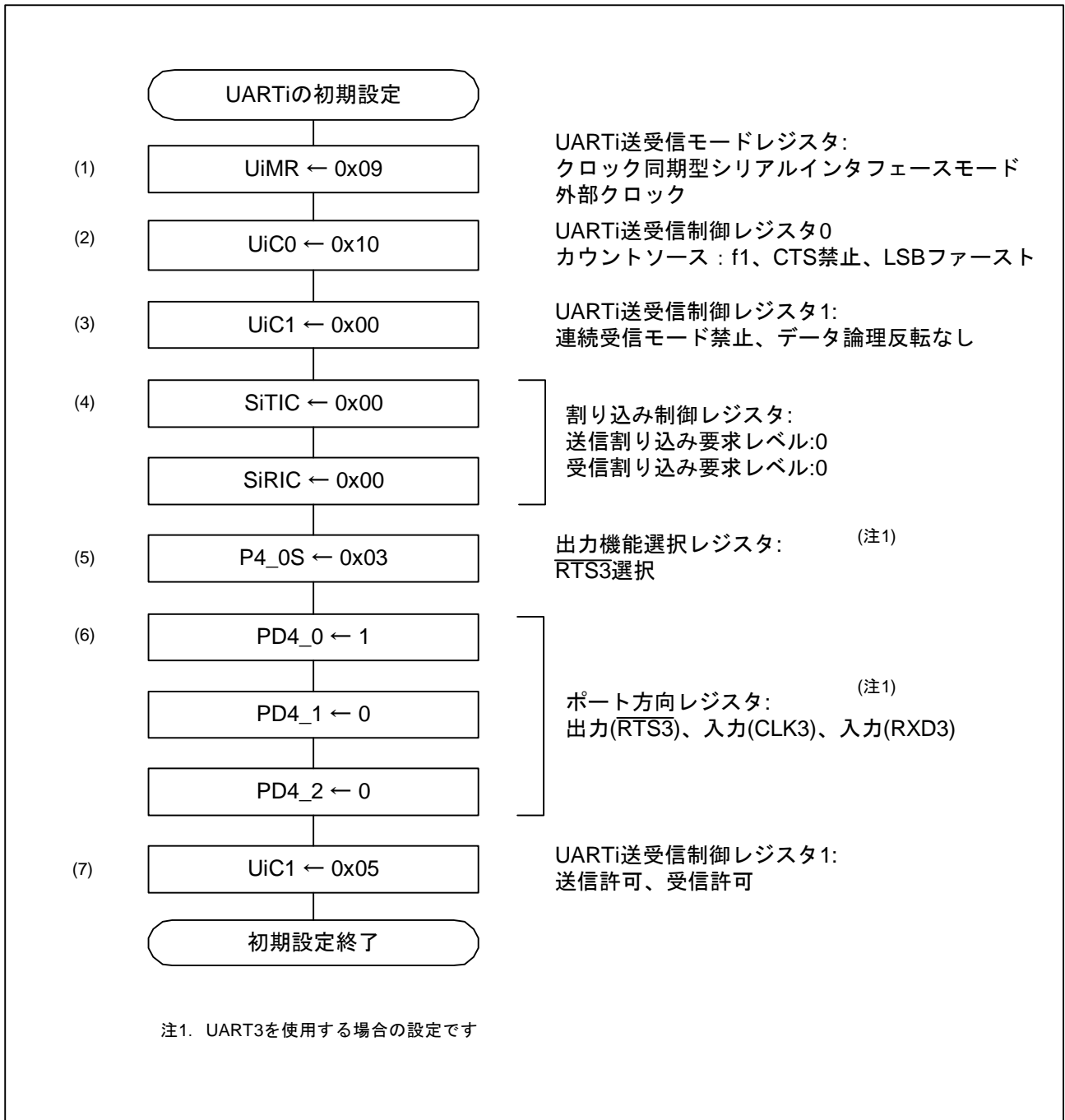
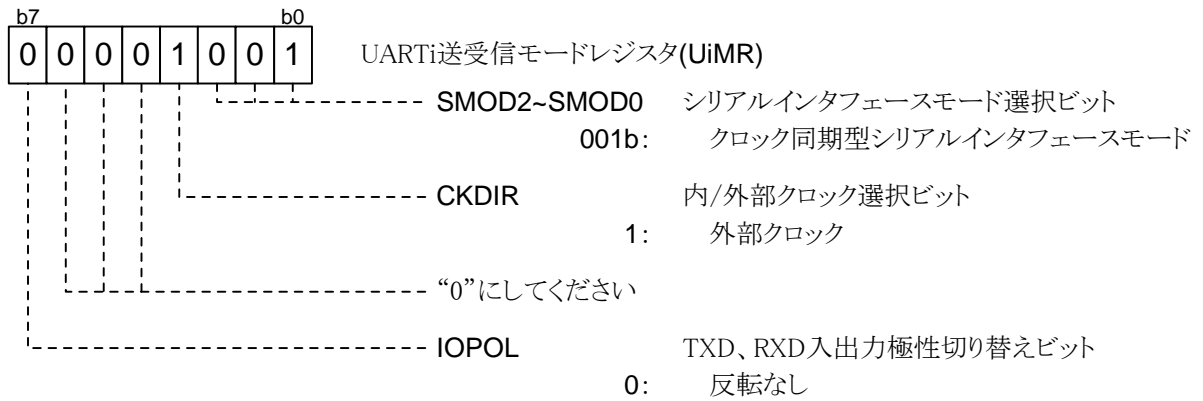


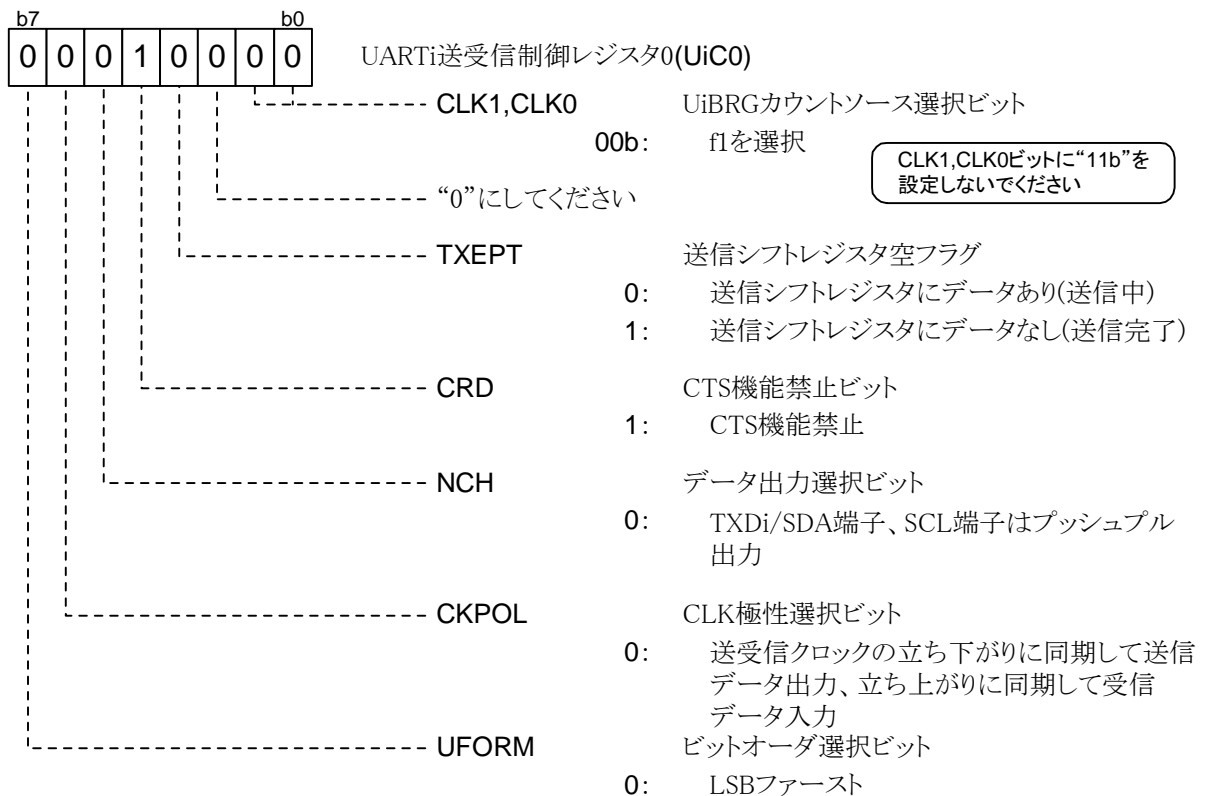
図 4. UARTi 初期設定処理のフローチャート (i=0~6)

3.3 設定手順詳細

UARTi送受信モードレジスタの設定(i=0~6)



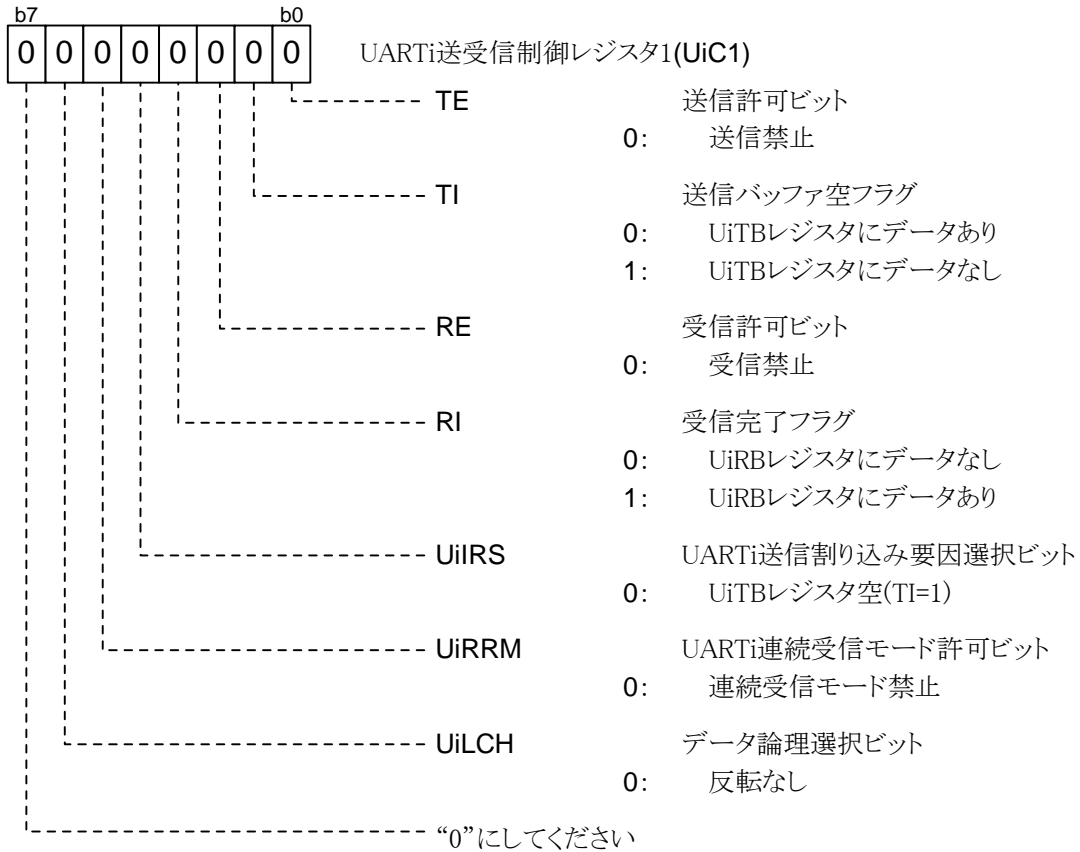
UARTi送受信制御レジスタ0の設定



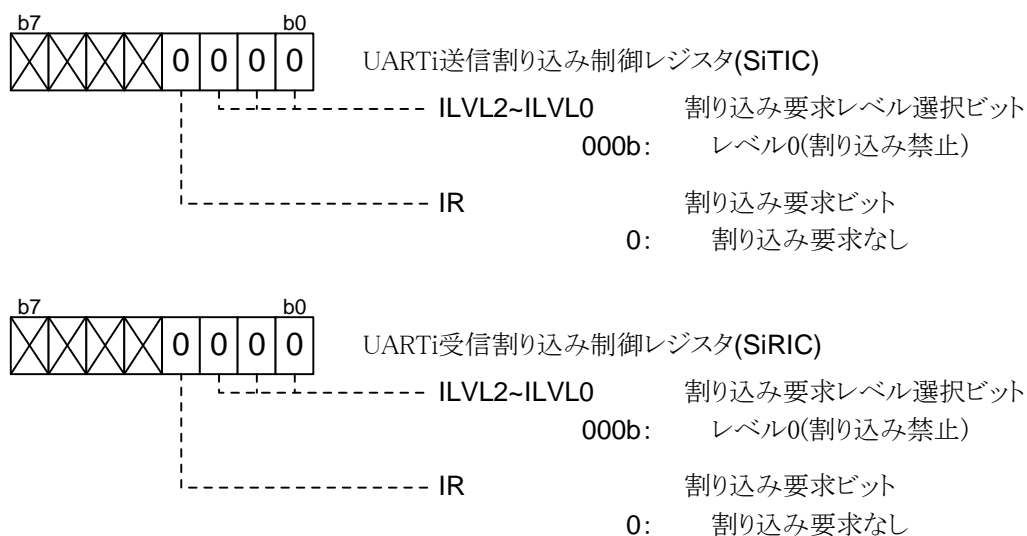
次ページへ続く

前ページから

UARTi送受信制御レジスタ1の設定(i=0~6)



割り込み制御レジスタの設定

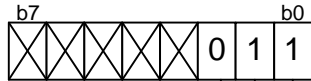


次ページへ続く

前ページから

機能選択レジスタの設定

UART3を使用する場合の設定です

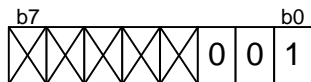


ポートP4_0機能選択レジスタ(P4_0S)

PSEL2~PSEL0 ポートP4_0出力機能選択ビット
011b: RTS3出力

ポート方向レジスタの設定

UART3を使用する場合の設定です



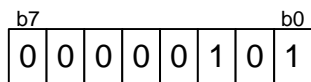
ポートP4方向レジスタ(PD4)

PD4_0 ポートP4_0方向ビット
1: 出力

PD4_1 ポートP4_1方向ビット
0: 入力

PD4_2 ポートP4_2方向ビット
0: 入力

UARTi送受信制御レジスタ1の設定(i=0~6)



UARTi送受信制御レジスタ1(UiC1)

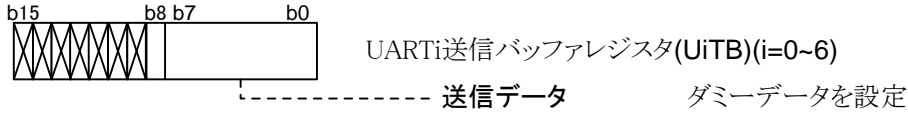
TE 送信許可ビット
1: 送信許可

RE 受信許可ビット
1: 受信許可

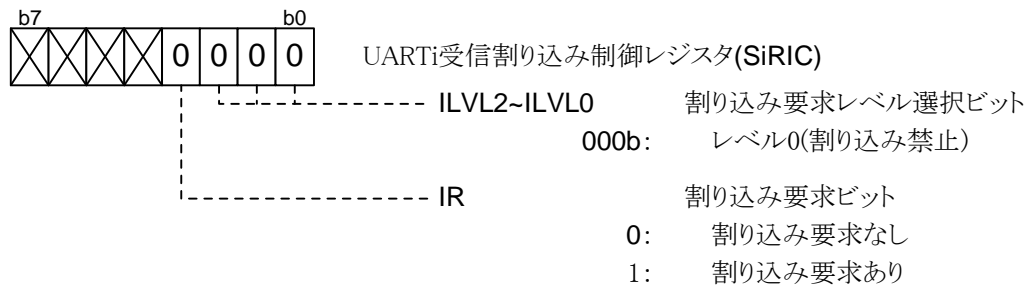
次ページへ続く

前ページから

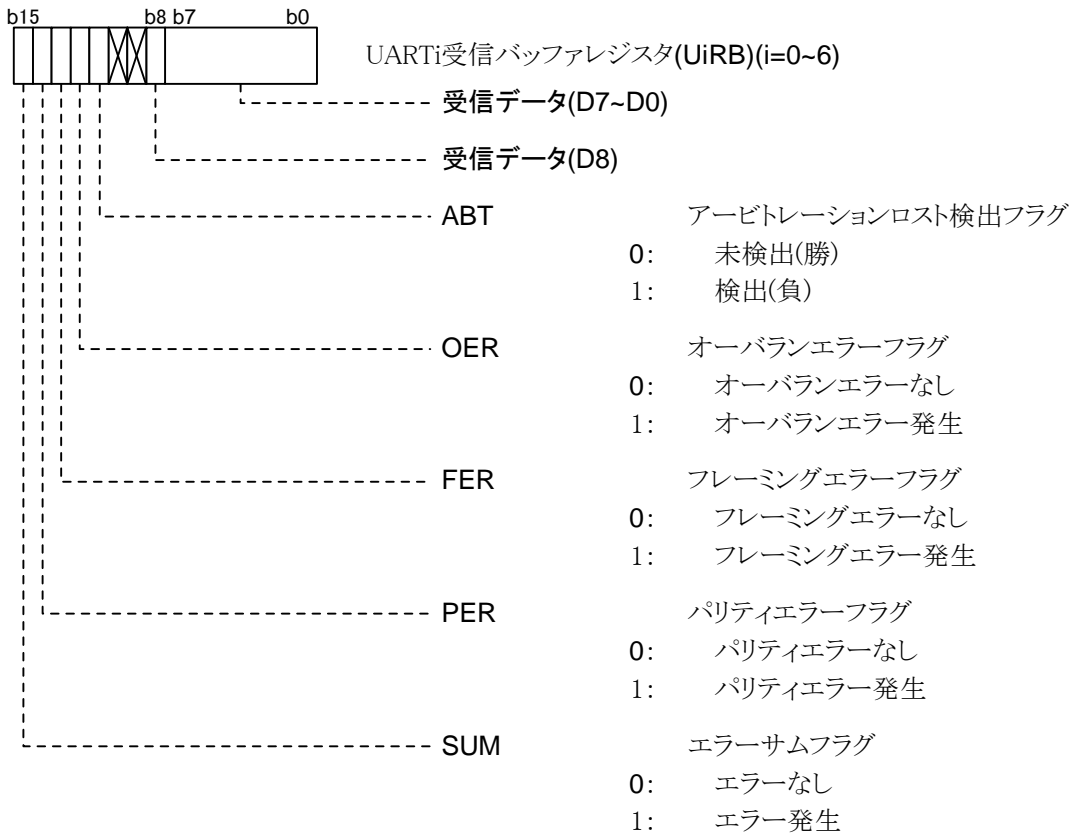
送信ダミーデータの書き込み



割り込み要求ビットの確認と割り込み制御レジスタの設定



受信データの読み出しとエラーチェック



4. 参考プログラム

参考プログラムは、ルネサス テクノロジホームページから入手してください。

5. 参考ドキュメント

ハードウェアマニュアル

R32C/111 グループハードウェアマニュアル Rev.1.10

(最新版をルネサス テクノロジホームページから入手してください。)

テクニカルアップデート/テクニカルニュース

(最新の情報をルネサス テクノロジホームページから入手してください。)

Cコンパイラマニュアル

R32C/100 シリーズ用Cコンパイラパッケージ V.1.02 Cコンパイラユーザーズマニュアル Rev.1.00

(最新版をルネサス テクノロジホームページから入手してください。)

ホームページとサポート窓口

ルネサス テクノロジホームページ

<http://japan.renesas.com/>

お問い合わせ先

<http://japan.renesas.com/inquiry>

csc@renesas.com

改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
0.50	2008.11.28	-	初版発行
1.00	2009.02.25	-	ハードウェアマニュアル Rev.1.00 に対応して改訂
1.01	2010.02.03	-	ハードウェアマニュアル Rev.1.10 に対応して誤記修正 4.参考プログラム Xin=16MHz に伴いカウントソース、PLL 設定待ち時間を修正

すべての商標および登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。

本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様に用途に応じた適切な弊社製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報について弊社または第三者の知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾または保証するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例など全ての情報の使用に起因する損害、第三者の知的財産権その他の権利に対する侵害に関し、弊社は責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的、あるいはその他軍事用途の目的で使用しないでください。また、輸出に際しては、「外国為替および外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、それらの定めるところにより必要な手続きを行ってください。
4. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの全ての情報は本資料発行時点のものであり、弊社は本資料に記載した製品または仕様等を予告なしに変更することがあります。弊社の半導体製品のご購入およびご使用に当たりましては、事前に弊社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、弊社ホームページ(<http://www.renesas.com>)などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
5. 本資料に記載した情報は、正確を期すため慎重に制作したのですが、万一本資料の記述の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、弊社はその責任を負いません。
6. 本資料に記載の製品データ、図、表などに示す技術的な内容、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例などの情報を流用する場合は、流用する情報を単独で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。弊社は、適用可否に対する責任を負いません。
7. 本資料に記載された製品は、各種安全装置や運輸・交通用、医療用、燃焼制御用、航空宇宙用、原子力、海底中継用の機器・システムなど、その故障や誤動作が直接人命を脅かしあるいは人体に危害を及ぼすおそれのあるような機器・システムや特に高度な品質・信頼性が要求される機器・システムでの使用を意図して設計、製造されたものではありません（弊社が自動車用と指定する製品を自動車に使用する場合を除きます）。これらの用途に利用されることをご検討の際には、必ず事前に弊社営業窓口へご照会ください。なお、上記用途に使用されたことにより発生した損害等について弊社はその責任を負いかねますのでご了承願います。
8. 第7項にかかわらず、本資料に記載された製品は、下記の用途には使用しないでください。これらの用途に使用されたことにより発生した損害等につきましては、弊社は一切の責任を負いません。
 - 1) 生命維持装置。
 - 2) 人体に埋め込み使用するもの。
 - 3) 治療行為（患部切り出し、薬剤投与等）を行うもの。
 - 4) その他、直接人命に影響を与えるもの。
9. 本資料に記載された製品のご使用につき、特に最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件およびその他諸条件につきましては、弊社保証範囲内でご使用ください。弊社保証値を越えて製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、弊社はその責任を負いません。
10. 弊社は製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、特に半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。弊社製品の故障または誤動作が生じた場合も人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないよう、お客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計（含むハードウェアおよびソフトウェア）およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特にマイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
 - 1 1. 本資料に記載の製品は、これを搭載した製品から剥がれた場合、幼児が口に入れて誤飲する等の事故の危険性があります。お客様の製品への実装後に容易に本製品が剥がれることがなきよう、お客様の責任において十分な安全設計をお願いします。お客様の製品から剥がれた場合の事故につきましては、弊社はその責任を負いません。
 - 1 2. 本資料の全部または一部を弊社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断りいたします。
 - 1 3. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせ、その他お気づきの点等がございましたら弊社営業窓口までご照会ください。

D039444